

第十八期

登別商工会議所

会頭所信

この度の議員改選により登別商工会議所会頭の職を重ねて担うこととなりました。

改めてその責務の重さに身の引き締まる思いを致すとともに、登別市の永続的な発展と地域経済の活性化、登別商工会議所の発展に向け、これまで以上に全力を傾注しなければと思いを新たにしております。

とりわけこの三年近く、世界を覆いつくしたコロナウイルスの災禍を思うとき、「いま、ここにある危機」の底深さと広がり、思いを致さざるを得ません。

この災禍は、いまだ収束に至らず、先行きの不透明感さは増すばかりです。

加えて、この二月に勃発した、圧倒的な軍事力を持ったロシアによるウクライナ侵略。

これまで世界が積み上げて来た平和への営みを根底から覆すこととなりました。

自由と民主主義を守り、力による現状変更を多としない世界各国は、連携してロシアに対して政治的、経済的、軍事的な対応を加速させました。

その結果、世界経済は、第二次大戦以降経験したことのないような混沌とした状況に落ち入っています。

エネルギーや産業資源の調達が不安定化し、産業経済全体は大きなダメージを被っています。また、米国の金融引き締めの影響で急激な円安が進行し、資源輸入を余儀なくされている日本経済は、原材料や輸送などの調達コストが高騰、電力・石油製品をはじめあらゆる製品が価格高騰の波に見舞われ

ております。

そんな状況の中、登別商工会議所第十八期の始動にあたり、所信の一端を述べさせて頂きたいと思  
いますが、今、私の胸の内を去来する言葉は、次の言葉です。

「いかなる犠牲、いかなる危険を伴おうとも、全ての危険の中で最も大きな危険は、何もしないと  
いうことである。」

これは、第三十五代アメリカ合衆国大統領 ジョン・F・ケネディの言葉です。

確かに私たちは、激動し不安定化する状況の中で、引き続き少子高齢化、人口減少、地域需要の減  
衰など負のベクトルに晒されています。

長引くコロナ禍の中で、これまでの暮らしのあり方自体が変容し、商売やビジネスを支える根幹的  
な構造自体も大きな変化を強いられています。

このような中で持続可能な地域や事業を展開して行くためには、「負を正に」「マイナスをプラスに」  
すべく、果敢に挑戦することだと思っています。

「何もしない」ことこそ最も回避しなければならない「危機」と受け止めています。

商工会議所と言う地域唯一の総合経済団体は、今こそ、第一次産業から第三次産業の事業者が自ら

集い、志を同じくして地域の発展と自らの事業の隆盛を目指す、目的集団としての力を発揮するときではないでしょうか。

幸いにも、私たちの町には、「温泉」という天与の資源とそれを磨きが上げている観光産業が根付いています。海・山・川・湖、豊かな自然にも恵まれています。

そして、都会にはない温かい近隣関係とコミュニティがあります。それらの「核」をより深く、広く育て上げることで町の豊かさをより強固にしていく、その機能を担う商工会議所でありたいと思っています。

さて、いま、少し出口の見え始めているコロナ禍を振り返りつつ、私たちは、どこに向かって進むべきなのでしょうか。

その方向は、決してコロナ以前の社会、ビフォア・コロナではないというのが私の受け止め方です。コロナ禍が終わったら、再び、コロナ禍前の社会に戻るのでしょうか。

どうもそうとは言えない状況が訪れているようです。

「観光」「飲食」「サービス」「商業」「製造」。

登別の地域を下支えしている各産業分野において、いま、進行しているのは、ウイズコロナ・アフターコロナへ向けた新たな構造変化の萌芽です。

コロナ禍において進展したICT活用による在宅ワーク、その中からワーケーション、移住定住への動きが出てきています。

飲食業で根付いたテイクアウト・デリバリー手法の洗練化と成熟化は、キッチンカー活用の新たなビジネスを生み始めています。

製造業においては、これまで既定の需要を見込んだ製品製造の方向から、新たなニーズを取り込んだ新製品の開発による新たな需要の開拓へ向かっています。

また、コロナ禍においてその脆弱性が露わになった外国人労働者の活用は、世界的な労働力不足の状況下、より、専門的・高度な人材活用へと舵を切り始めています。ここ20年間、先進国の中で唯一日本人の平均収入は上がっていません。加えて円安で外国人材労働者は韓国や中東で働き日本国内の生産性の低下が懸念されます。

一方、観光業においては円安基調下での新たなインバウンドへのアプローチが模索されています。香港から訪れたお客様が6,500円のお寿司のランチに香港の半額で本格的な食事が出来ることに満悦される姿にビジネスチャンスを感じざるを得ません。

コロナ禍を経た世界は、新たな構造を持って立ち現れ、これまでとは違った社会の出現かもしれません。

私たちは、それらを見据えながら、新たな社会に向かって一歩、いや、半歩前でも着実に歩みを進める気概と決意を持ちたいと思います。

このような思いを背景に、私は、今後三年間の登別商工会議所活動を次の4つの視点で進めて参りたいと思います。

視点の第一は、何よりも地域経済の持続的発展に向けた活性化への取り組みです。

外貨獲得と獲得した財の地域循環をどう構築するか。

登別市の基幹産業と言われる観光業は、国内はもとより世界各国からお客さん呼び込み、多くの外貨を獲得することが可能です。

観光産業が、名実ともに登別の基幹産業と言われるためには、その獲得した外貨が二倍・三倍になって地域に循環することが必要です。

これまでも循環型経済の構築を目指して可能な取り組みを進めてきましたが、ウイズコロナ・アフターコロナ時代を見据えた新たな財の地域循環の仕組みとツールを構築する時です。

観光をキーワードに多彩なスタートアップ事業が展開される仕組みを総力を挙げて検討する必要があります。

多様化する観光需要を受け、宿泊拠点の登別温泉を補完するスタートアップがどうあるべきなのか、又、ICTを活用して温泉観光を補完するビジネスの可能性が何処にあるのかの研究等々、これまでの「全市観光」概念の更なる発展を目指した研究活動を進めます。

外貨獲得を目指した、空き家・未利用地などの有効活用、高まりつつあるアウトドア・アクティビ

テイの受け皿づくり、地域の文化と歴史を観光に結びつける人材と資源の発掘などに取り組みたいと思います。必要とあれば商工会議所が主体となって、新たな起業創業をプロデュースすることも視野にその動きを強めて参ります。

第二の視点は、登別商工会議所の組織機能のブラッシュアップです。

コロナの影響で行動が制約され、ややもすると静的な会議主体の会議所活動でしたが、新たな時代における会議所機能の構築を目指し、常議員の皆さんや部会・委員会のご協力を得て、課題解決型の会議所活動を進めて参ります。

委員会・部会発案のセミナーやワークショップ、視察・学習会等の開催を通じ、事業者の皆さんのリアルな課題を練り込んだ活動です。

会員各位が、主体的に商工会議所活動に係わり、自らが商工会議所と言う舞台を回していく、そのような仕組みと新しい商工会議所文化の創造を目指したいと思います。

また、商工会議所の重要な機能の一つである、政策提言、まちづくり提案については、部会活動から湧き上がる喫緊の課題が練り込まれる仕組みづくりを進めます。

事業所の減少に伴い、商工会議所の会員数は漸減傾向にあります。

地域の唯一の総合経済団体である商工会議所が、地域の中で必要である地位を保持するためには、会員の確保が必須です。

様々な要因で、未だ会員になっていない市内事業者へ積極的にアプローチし、共に、地域の発展の

ために力を尽くす態勢を構築するため会員増強の取り組みを強めます。

事務局の会員拡大に向けた取り組みを検証しながら、会員それぞれがお取引先様である、事業のステークホルダーに働きかけるなど、一体となった取り組みを進める仕組みづくりが必要です。また、事務局内に会員拡大活動を総合的にプロデュースするセクションを儲けるなど会員増強活動の見え化を進めます。

第三の視点は、いまだ十分とは言えないこの会員事業所におけるIT/IOT導入による生産性の向上です。とりわけ、小規模事業者の多いこの地域においては、未だ、十分に情報技術の活用が図られていない現状にあります。

国のDX（デジタルトランスフォーメーション）政策の動向を見据えながら登別版DXとして地に足の着いたIOT活用について事業者の皆さんと可能な取り組みを進めます。

マイナンバーカードの普及と相まって進められる個人認証のデジタル化、それに伴う様々な行政サービスの構築と並行していよいよ資金決済のデジタル化が社会の隅々まで普及しつつあります。

早晚訪れるキャッシュレス社会の中で地域の小規模事業者の皆さんが、その社会環境を自らの事業のなかでストレスなく活用できることが肝要です。

金融機関とも連携し、小規模事業者の皆さんがキャッシュレス時代に適応できる環境づくりを進めます。

また、商工会議所と会員事業者さんとのコミュニケーションの円滑化を進めるため、これまでのF



A Xに代表されるアナログ手法から積極的にLINE・FACEBOOK・グーグルフォームなどの活用による情報の受発信を強めます。

そのためには事務局内のIT人材の育成が急務です。職員のIT活用能力の向上を図るとともに、事務局組織内にIT担当セクションを設け、ワンストップの情報受発信に努めます。

最後に、第四の視点は、本年、登別商工会議所は創立五十周年を迎えました。

コロナ禍の中で式典等は次年度へ延期することとしましたが、改めて会員総意でその日を迎え、次の五十年に進み続けて参りたいと思っております。

以上、十八期の始動に当たって所信の一端を申し述べましたが、厳しい経済情勢の下、引き続き「要とされる商工会議所」「行動する商工会議所」「結果を作り出す商工会議所」をモットーに努めてまいります。会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和四年十一月一日

第十八期登別商工会議所

会頭 木村 義恭